

器51 医療用嘴管及び体液誘導管  
管理医療機器 吸引・通気用カテーテル 17795000

## SB-blowingカテーテル

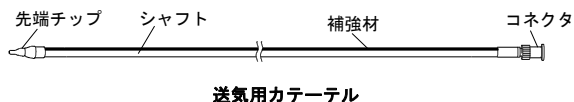
再使用禁止

### 【禁忌・禁止】

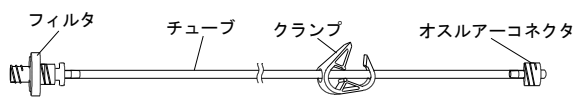
1. 使用方法
  - 1) 再使用禁止

### 【形状・構造及び原理等】

1. 本品は、シリコーンゴム製の送気用カテーテルと延長チューブからなる。
2. 送気時に空気漏れが起こらないよう、先端チップの外径は二段階変化になっている。
3. シャフトにはステンレス製の補強材が挿入されているため、任意の形状を保持することができる。
4. シャフトは9.8Nの引張強度を有している。



送気用カテーテル



延長チューブ

### 〈材質〉

各部の名称	原材料
先端チップ、シャフト	シリコーンゴム
補強材	ステンレス

本品はラテックスフリーである。

### 〈原理〉

送気回路に接続し、切除肺区域の末梢側気管支内腔にカテーテルを挿入し、気管支に空気を送気することで、選択的に切除予定区域を膨張させることができる。

### 【使用目的又は効果】

本品は、肺区域切除術時において切除予定区域を膨張させることを目的として使用する。

### 【使用方法等】

1. 操作方法
 

本品はディスプレイ製品であるので、一回限りの使用のみで再使用しない。
2. 一般的使用方法
  - 1) 滅菌包装より丁寧に取り出し、破損等がないことを確認する。
  - 2) 送気源に延長チューブのフィルタを取り付ける。
  - 3) 延長チューブのオスルーコネクタにカテーテルのコネクタを取り付ける。
  - 4) 送気源を適正圧力に調整し、延長チューブのクランプを閉じる。(送気圧の目安：1.0kPa～3.0kPa以下)
  - 5) 切離した目的気管支の末梢側断端部にカテーテルの先端チップ側を挿入した後、延長チューブのクランプを開放し、送気を開始する。
  - 6) 切除予定区域が十分に膨らんだところで、速やかに延長チューブのクランプを閉じ、送気を終了する。
  - 7) カテーテルを気管支より抜去する。

### 3. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 1) 延長チューブをクランプする際は、本品に具備されているクランプ以外使用しないこと。
- 2) シャフトは90度以上曲げないこと。[チューブがキンクするおそれがある]
- 3) カテーテルと延長チューブの接合部を過度に引っ張るような負荷は加えないこと。[本品の破損、接合部の外れ、空気漏れが生じるおそれがある]

### 【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）
  - 1) 高度肺気腫および間質性肺炎を合併する患者には使用しないこと。[肺過膨張や肺実質損傷のおそれがある]
2. 重要な基本的注意
  - 1) 術前の検査等により、本品使用の適否を決定すること。[気管支径が2mm以下または6mm以上の場合、適切な送気ができない場合がある]
  - 2) 送気源には医療用調圧器を完備したものを使用し、使用中の送気圧は、3.0kPaを超えないように注意すること。[過剰な送気圧は、本品の破損及び肺損傷のおそれがある]
  - 3) 送気を開始する前に、カテーテルが目的気管支に挿入されていることを確認すること。[肺動脈などの血管へ挿入された状態での送気は、肺塞栓等のおそれがある]
  - 4) 区域気管支断端からの送気は、肺の膨張状態を考慮しながら臨床上の判断に基づき慎重に行い、肺の過膨張を来たさない送気量にとどめること。[過剰送気は、本品の破損及び肺損傷のおそれがある]
  - 5) 鉗子等で把持する際は本品を傷つけないよう注意し、傷が生じている(生じた)場合は使用しないこと。[シリコーンゴム製品は、傷が生じることにより強度が著しく低下する]
3. 不具合・有害事象
 

本品の使用に際し、以下のような有害事象が生じる可能性がある。

  - 1) 重大な有害事象
    - ・ 過剰送気による肺損傷
    - ・ 血管内誤挿入、誤送気による肺塞栓

### 【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法
 

水濡れに注意し、高温、多湿な場所及び直射日光を避けて、清潔な状態で保管すること。
2. 有効期間
 

使用期限は製品ラベルに記載。[自己認証(当社データ)による]

### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元 富士システムズ株式会社  
TEL 03-5689-1927